

普及活動検討会実施報告書

(石巻) 農業改良普及センター
 実施月日：平成30年8月24日
 実施場所：大塩市民センター(東松島市)
 (単位：人)

1 検討内容

No	検討項目
	現地検討を踏まえての課題検討 課題No5「水稻直播栽培の技術定着による稲作経営体の経営強化」 プロ課題の進捗状況 課題No6 課題No1～4

2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	
若手・女性農業者		学識経験者	
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
現地検討を踏まえての 課題検討 課題No5	4.5	<ul style="list-style-type: none"> 乾田直播により作業負担が軽減する。雑草の除草作業が今後の課題で、継続的な支援が必要。薬剤選定などを中心に、引き続きの支援を望む。 おおしお北部では、均平作業から除草剤1回まで9,000円/10aの作業料金だとすると、今後の受託作業も伸びる要素があるのではないかと。稲の姿を見ると9～10俵は獲れそうで、これからも取り組みを続けてほしい。 ◎乾田直播の圃場は見たところ、移植栽培と同じくらいの生育状況で、播種の10a当たりの経費も9000円で出来るので経営強化につながると思う。乾田直播の技術を普及させていただき、コスト削減、大規模経営の力になってほしい。除草剤の使い方が大事な要点である。 転作後で倒れたほ場で、一般の方々から直播してくれと頼まれ、15ha直播している。今後のことを考えると現地検討でみた取り組みが必要である。 ◎毎年の生育調査のおかげで栽培暦ができてきて、直播のいちばん良い時期が選べるようになってきた。 乾田直播の作業受託は、地域全体の生産性向上につながる仕組みとしても評価できるのではないかと。 ◎乾田直播が生産性向上につながる技術か、つまりはイノベーションに成り得るか、しっかり検証する必要性を感じた。 ◎大規模経営体に農地を集積するには育苗が課題となつ 	<ul style="list-style-type: none"> 乾田直播栽培では、雑草防除技術は大切な技術であるので適切な使用方法の技術支援に取り組みます。 水稻乾田直播栽培によるコスト削減や労働時間の短縮等の導入による効果については、経営体の事例調査等により、その効果を明らかにし、直播栽培の定着及び拡大に向けた活動に取り組みます。

		<p>ているため、直播栽培の定着は経営体にとって大変メリットがある。直播栽培によるコストの縮減及び労働時間の短縮が数字で欲しかった。</p> <p>◎水稲直播栽培の推移をみると、管内作付面積は、平成28年と平成29年比較で199ha増加していること、また、県内の地区と比較しても、最も多く取り組まれており、直播を行うことで、作業軽減を図ることにより、他の作業を行うことができ、効率的な経営にもつながるものであり、更なる普及に向け取り組んでいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまでの説明を聞いていると、この課題で稲作経営体の経営が強化されたところが分からない。 • 支援の内容が、技術的な支援に偏りすぎている。一般的な意味でとるなら、経営体の強化とは、経営体の現状の数値を捉えて、改善目標を決めて取り組み、改善されたかを評価するもの。技術的な支援は、その方法の一つ。プロジェクト課題等で表現する時、言葉を味わっていただき、経営強化という言葉を使うなら、経営数値が何かしら変わる、やる前とやった後で比較して改善されたかを確認する必要がある。 <p>◎本プロジェクトは本年度で終了である。にもかかわらず、発表内容からは諸活動がテーマである「経営体の経営強化」につながったのか否か良く判らなかった。地域農業に貢献する良いテーマで日々の活動は対象事業者と良く連携して進められておられるように思うので残念である。これはテーマ選定時にKPIを設定していない事が原因と思われる。今後はテーマ選定時にしっかりKPIを議論して定め、それを意識して活動する様にすればより良い成果が期待できると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 経営体強化については、上述のコストや労働時間等により、移植栽培と比較しての評価や稲作経営における評価として整理していきます。 • プロジェクト課題の成果指標に基づき、その目標の達成に向けてのプロセスが適正に実行しているか、また、そのプロセスの内容が現状に即しているかを常に意識して活動に努めます。また、説明時には定量的な把握や理解が出来るよう検討します。 • 今後、プロジェクト課題等で表現する内容については、活動内容と連動する内容に留意していきます。
<p>プロ課題の進捗状況 課題No6</p>	<p>3.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 中期計画は3法人全てで作るのか。いつまでに、どんなものを作るのか。 • 計画は、法人が中心となって考えることではあるが、今後の経営安定を導くため1年、2年でできる仕事ではないので、継続して支援を願う。 <p>◎行政として、どこまで支援を行うのかが、不透明であり、支援を受ける側としても、どこまで踏み込んでいいのか戸惑うのではと感じた。中長期計画をしっかりと作成のうえ、目標を定め、取り組んでいくことが重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 稲作は戸別が多く、転作と別々が多い。法人自体も年をとる。新しい人材を雇おうとした時、転作しかしていないと新しい担い手も入ってこない。転作+水稲よりは、転作だけで法人化の方が楽であるが、儲かる 	<ul style="list-style-type: none"> • 法人が主体となり、それぞれの法人の目標に応じた計画作成ができるよう支援していきます。プロジェクト活動期間終了後は、引き続き重点活動などを取り上げて支援に取り組みます。

		<p>ような組織でないと、新しい担い手が入ってこないのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎転作のみの法人でなく、水稻+転作の法人化が必要と思う。 ◎いちばん大変な法人経営だと思います。引き続き情報提供が必要である。 ◎集落営農組織からの農業法人で大豆の収入が主体で問題点が多数あるようですが、会社を設立したという意識を持てるよう今以上の指導支援をお願いしたい。 ◎地味ですが、大切な課題と捉えている。結構、ちから仕事と察します。 <p>◎本プロジェクトは本年度終了である。本プロジェクトは、対象経営体の意識改革を進める内容でご苦労が多かったと思う。地域農業に貢献する良いテーマで日々の活動は対象経営体と良く連携して進められておられる様に思うが、残念な事に本プロジェクトは達成度が明確になっていない。これはテーマ選定時にKPIを設定していない事に原因と思われる。今後はテーマ選定時にしっかりKPIを議論して定め、それを意識して活動する様にすればより良い成果が期待できると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト課題の成果指標に基づき、その目標の達成に向けてのプロセスが適正に実行しているか、また、そのプロセスの内容が現状に即しているかを常に意識して活動に努めます。
課題No1	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・防災集団移転跡地について、宅地跡は排水性が良くないため、畑として利用するには無理があり、避けた方が良いのではないか。 ◎防災集団移転跡地の利用について、「経営の安定化」に資するのかが疑問である。 ◎大規模経営体にはなったが、まだまだ改善の余地があり、特に人材育成、栽培技術の向上に力を入れて欲しい。 ◎組織経営体への移行で、特に、労務管理、人材育成について、研修やセミナーを継続的に開催していただきたい。 ◎ワークショップなどで組織の問題点を検討している。 <p>◎本プロジェクトは平成31年度までである。活動のテーマは「経営の安定化」となっている。地域農業に貢献する良いテーマだと思うが、残念な事に本件活動で言う「経営の安定化」とは、いかなる状態なのか良く判らない。KPIをしっかり議論して定め、現状と共に明確にして日々の活動に取り組んで欲しい。それを意識して活動する様にすればより良い成果が期待できると思</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災集団移転跡地での大豆栽培は、法人経営の大豆栽培の延長として対応しており、安定的な収量確保を支援していきます。 ・法人のニーズや課題に対応した専門家派遣等を通じて、法人経営の安定が図られるよう支援していきます。 ・プロジェクト課題の成果指標に基づき、その目標の達成に向けてのプロセスが適正に実行しているか、また、そのプロセスの内容が現状に即しているかを常に意識して活動に努めます。 ・個別目標の設定においては、法人の意向に基づき経営の発展に対応した経営改善計画等の作成支援に取り組みます。

		<p>う。 対象経営体毎に現状状態が異なると思われるので達成目標も異なることが予想されるので個別の目標設定も必要と思う。</p>	
課題No2	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・複合環境制御により大玉トマト等は国内でも30～50%^ト獲れる技術が確立されつつある反面、販売環境は一層、厳しくなることが予想される。管内においても環境制御技術に積極的に取り組む必要がある。 ◎複合環境制御を十分に活かすことが、収量を増やすうえで重要であることを十分に理解していただき、安定的な収量確保につながる支援をお願いしたい。 ◎大規模園芸施設経営体は栽培作業のほかに雇用管理が大変である。 ◎大規模園芸施設経営体には強力な経営改善指導が必要である。 ◎計画の設定、展開の方向性、今後の対応についてほぼ十分である。 <p>◎本プロジェクトは平成32年度までである。活動のテーマは「経営体の育成」となっている。地域農業に貢献する良いテーマだと思うが、残念なことに本プロジェクトは達成度が明確になっていない。対象経営体の意識改革を進める内容で推進には苦労が多いと思う。早期にしっかり議論してKPIを定め、それを意識して活動して欲しい。そうすればより良い成果が期待できると思う。経営状況の把握には決算書の確認が重要である。継続的に入手し、分析を行って欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複合環境制御技術の活用や総合的病害虫管理の定着や実践により、生産技術の高度化に向けた支援を図ると共に、法人経営の安定化に向けた支援に取り組みます。 <p>・プロジェクト課題の成果指標に基づき、その目標の達成に向けてのプロセスが適正に実行しているか、また、そのプロセスの内容が現状に即しているかを常に意識して活動に努めます。</p>
課題No3	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ◎IPM技術の導入と農薬との関係はこれからも新しい技術なので普及を進めて下さい。 ◎管内の生産者間での意見や情報交換も重要であるものと捉えているが、県内の生産者（亘理・山元）との交流を行うことで、今後の経営において参考となるものも多いのではないかと。 ◎先進技術の活用は組織の活性化にもつながる。 ◎生産技術を高度化し、いちご産地のステップアップを図るといって個別経営体から「産地」を意識した取り組みを評価します。 <p>◎本プロジェクトは平成31年度までである。活動のテーマは「いちご産地のステップアップ」となっている。他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・IPM技術や環境制御といった共通の課題の技術の普及を図ると共に、関係機関と連携し生産者交流や情報発信等に努めて参ります。 <p>・プロジェクト課題の成果指標に基づき、その目標の達成に向けてのプロセスが適正に実行しているか、また、そ</p>

		<p>のテーマと異なり比較的技術指導中心のテーマだと思う。しかし本テーマもKPIが明確になっていない。KPIをしっかり議論して定め、現状と共に明確にして日々の活動に取り組んで欲しい。それを意識して活動する様にすればより良い成果が期待できると思う。対象経営体毎に現状状態が異なると思われるので達成目標も異なる事が予想されるので個別の目標設定も必要と思う。</p>	<p>のプロセスの内容が現状に即しているかを常に意識して活動に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別目標においては、経営体毎の意向に基づき目標達成に向けた技術支援等に取り組みます。
課題No4	3.8	<p>◎厳しい復旧農地での稲作で大変だと思います。農地の改善で少しでも収量がとれるよう支援をお願いしたい。</p> <p>◎長面地区の大半を宮城リスタ大川が耕作する予定となるため、直播栽培や塩害対策の支援を継続的にお願いします。</p> <p>◎直播栽培の技術の向上を図ることで、作付面積拡大し更なる省力化により安定的な経営につがる支援に期待する。</p> <p>◎No4の課題に関しては定量目標達成が重要でる。</p> <p>◎本プロジェクトは平成31年度までである。活動テーマは「大規模法人の経営力強化」となっている。地域農業に貢献する良いテーマだと思うが、残念な事に本件活動でいう経営力が強化された状態とは、いかなる状態なのか良く判らない。KPIをしっかり議論して定め、現状と共に明確にして日々の活動に取り組んで欲しい。それを意識して活動する様にすればより良い成果が期待できると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象法人の経営が早期に安定するよう目標達成に向けた継続的な支援に取り組みます。 ・プロジェクト課題の成果指標に基づき、その目標の達成に向けてのプロセスが適正に実行しているか、また、そのプロセスの内容が現状に即しているかを常に意識して活動に努めます。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な巡回訪問が手法としてあるが、巡回だけだと相手が迷惑する場合がある。テーマを決めていくのが大事で、お土産になる情報を持って回るように心がけていただきたい。機密の問題もあるが、紙ベースになっているものは問題ないと思うので情報提供をお願いします。 ◎経営体の育成・強化に関するプロジェクトテーマが多い中、普及センター職員の対象経営体支援がやや技術面に偏っている様を感じる。技術支援は、対象者との関係構築に有効な切り口と思うが、それだけに偏れば普及センター職員の業務としては片手落ちとなる。常にプロジェクトテーマを意識し、経営に寄与する活動を模索して欲しい。 ◎各担当から、資料に基づき説明があったが、要点をお 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい情報や施策等の情報収集を図り、対象者の有益な情報源となれるよう情報提供に努めて参ります。 ・技術と経営は両輪であるという意識を常に心掛け、経営体の発展に向けた活動に努めて参ります。 ・今後、要点を押さえた説明により検討会の進行に務めま

	さえた簡潔な説明を望む。	
--	--------------	--

		す。
--	--	----

※上記「評価結果」欄の◎印は、提出があった「普及活動検討会評価表」（別記様式第1号）」の「評価（評価できる点や改善すべき点）」欄に記載された内容を転記。